

関係委員意見聴取書面	
関係委員 (敬称略)	(所属) 東京農工大学 元教授
	(氏名) 星野 義延
聴取日	令和4年11月22日(火)
聴取者	環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 新田審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 福田審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 森審査官
要領4.(2) 利害関係者の除外	
・意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無。 利害関係 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
要領4.(3) 秘密保持の承諾	
・環境影響評価法手続に基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部にもらさない旨の承諾。 <input checked="" type="checkbox"/> 承諾 ・ <input type="checkbox"/> 非承諾	
<関係委員意見概要>	
「馬毛島のニホンジカ」と植生について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な改変が行われるものの、餌資源や生息環境としての植生の観点からは、シカの個体群が消滅することはないだろう。</li> <li>・「コアエリア」と「コリドー」の分布域の連続性について、実際に日常的に移動するかはわからないが、餌資源が無くなればシカは泳ぐこともできるので、コリドーの確保に関わらず、どんなことをしてでも移動するだろう。</li> <li>・改変区域内から改変区域外に移動したシカによる採食圧を軽減するために、改変区域が最大となりシカの生息可能域が最小となる時期と、餌資源量が最小となる季節が重ならないよう、例えば工事の時期を配慮することも有効と考える。</li> <li>・重要な植物種は湿地性の植物が多いため、湿地等の好適な生育環境は残した方が良い。小型の植物が多いため、シカが選択的に食べる可能性は低く、全体として採食への耐性は高いものと考えられる。ただし、シカによる影響を受けるおそれの高い保全対象の植物については、施設内で保全するという手法も考えられる。</li> <li>・保全措置は科学的な根拠を持って行うべきである。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(続く)</p>

- 事後調査について、シカの個体群についての基本的な情報（個体数、性比、齢構造等）は把握した上で、シカによる影響、すなわちシカの採食等により植生がどのように推移していくかについても、同時に把握していくべきである。例えば、採食がどのようなものに及んでいるか、不嗜好性の植物にまで及んでいるかなど。